

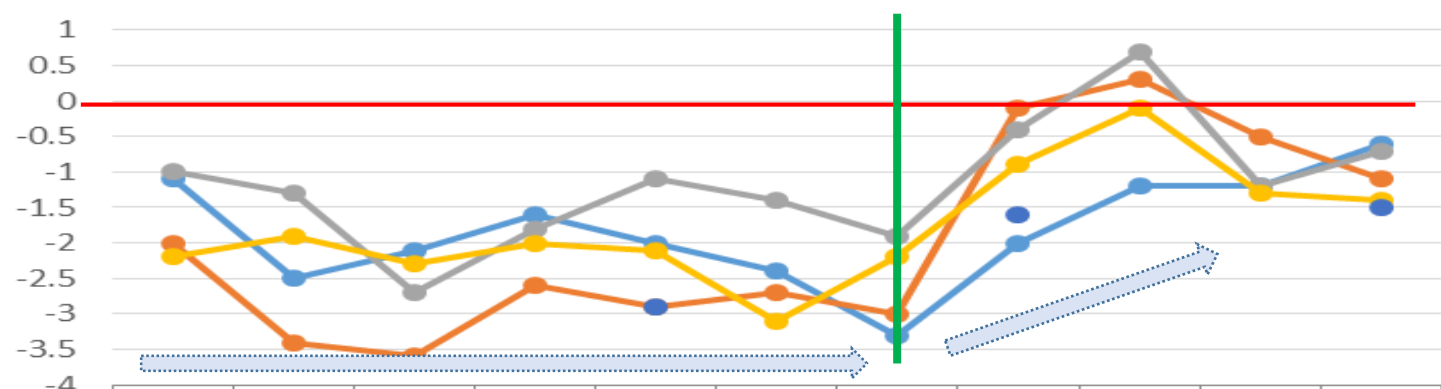
授業改善に向けた校長の リーダーシップについて

@総合教育センター 2019年6月3日

三重大学教職大学院 森脇健夫

I -1.平成19年(2007年)～平成30年(2018年)までの「全国学調」経年変化 (小学校・・・全国とのポイント差)・・・**三重県**

【資料】全国学力・学習状況調査結果
各教科における全国平均との差の推移

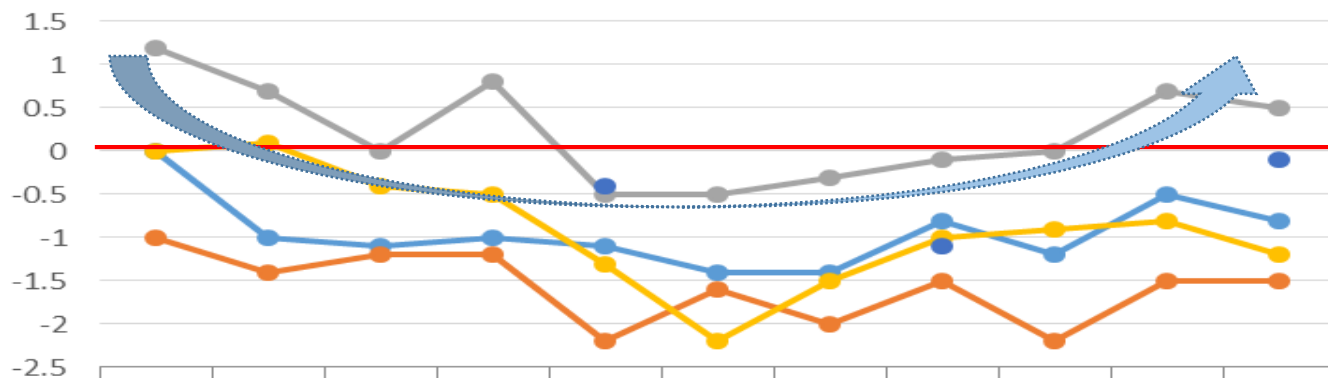


	H19	H20	H21	H22 (抽出)	H24 (抽出)	H25	H26	H27	H28	H29	H30
● 小国A	-1.1	-2.5	-2.1	-1.6	-2	-2.4	-3.3	-2	-1.2	-1.2	-0.6
● 小国B	-2	-3.4	-3.6	-2.6	-2.9	-2.7	-3	-0.1	0.3	-0.5	-1.1
● 小算A	-1	-1.3	-2.7	-1.8	-1.1	-1.4	-1.9	-0.4	0.7	-1.2	-0.7
● 小算B	-2.2	-1.9	-2.3	-2	-2.1	-3.1	-2.2	-0.9	-0.1	-1.3	-1.4
● 小理					-2.9			-1.6			-1.5

● 小国A ● 小国B ● 小算A ● 小算B ● 小理

平成19年(2007年)～平成30年(2018年)までの 「全国学調」経年変化 (中学校・・・全国とのポイント差)・・・**三重県**

【資料】全国学力・学習状況調査結果
各教科における全国平均との差の推移



	H19	H20	H21	H22 (抽出)	H24 (抽出)	H25	H26	H27	H28	H29	H30
●中国A	0	-1	-1.1	-1	-1.1	-1.4	-1.4	-0.8	-1.2	-0.5	-0.8
●中国B	-1	-1.4	-1.2	-1.2	-2.2	-1.6	-2	-1.5	-2.2	-1.5	-1.5
●中数A	1.2	0.7	0	0.8	-0.5	-0.5	-0.3	-0.1	0	0.7	0.5
●中数B	0	0.1	-0.4	-0.5	-1.3	-2.2	-1.5	-1	-0.9	-0.8	-1.2
●中理					-0.4			-1.1			-0.1

●中国A ●中国B ●中数A ●中数B ●中理

平成30年の「全国学調」から見る三重県の状況

1. 全体としては、一昨年(H28年)が2.5/8全国平均を上回ったのに対し、昨年(H29)は1/8、本年(H30)は1/10しか上回ることができなかった。
2. 従来の三重県全体の傾向として指摘してきた、小中学校両方における教科間落差(算数・数学>国語)は学力の結果としてはほぼなくなってきている。
3. H30年の結果をH29と比較すると、中学校数学Aだけが全国平均を上回るという同じ傾向が見られる。
4. 小学校においてはA問題の結果が全国平均との差を縮め、B問題の結果は差が広がっている。
5. 理科は前回実施(H27年)に比べて多少差が縮まってきている。しかし小学校における理科の状況は総じて課題が多い(理科好きの少なさ、実験回数、活用状況、将来の仕事)。
6. 学調による学校・授業改革の熱意薄れてはいかいか。「学調疲れ?」(活用率、PDCA)

活動1 個々の活動＋交流

1. 「学調」の結果データをどういう順番に見ていきますか？
データの何をどういう観点から分析していますか？またその理由は？

各学校配布「学調」の結果に含まれるデータ

- ① 調査結果概況
- ② 問題別調査結果
- ③ 問題別（解答類型）調査結果
- ④ 回答結果集計（児童・生徒質問紙＜グラフ＞）
- ⑤ 回答状況（学校質問紙）
- ⑥ 全国学力・学習状況調査結果チャート（学校）
- ⑦ 学校別解答状況整理表（S-P表）

「学調」の結果分析の3つの観点

1. 基礎・基本の通過率・・・ここが一番大事

SP表の分析→オレンジの多い問題(理解と定着に問題有)→誤答分析→つまずきの把握→授業の改善

2. 家庭での学習時間・・・家庭学習は学力の「基礎体力」

3. 児童・生徒質問紙・・・「学力」との相関関係の強い項目の存在(学びに向かう力)

1. 基礎・基本の通過率

◎ 200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ

	1	2	3	4
A小学校	6.7	46.7	<u>20.0</u>	26.7
三重県	8.8	31.0	<u>50.2</u>	6.2
全国	8.8	27.8	<u>52.9</u>	5.7
解答類型	0.4%	2.5%	<u>正解40%</u>	80%

誤答、1の類型(10.8%)、
2の類型(2.5%)をどう見るか？

児童・生徒質問紙の分析(3つの視点)

- ◎ 学調の結果と相関性が強い項目のチェック
自己肯定感、学習時間(スマホ等の接触時間)、学習の計画性(復習)最後までがんばったか(コミットメント)
3つのC(commitment control challenge) ➡ 学びに向かう力(例:最後まで頑張る力)と学習習慣
- ◎ 児童・生徒のよいところのチェック ➡ 何がこの「よさ」をもたらしているのか(課題よりよさを見る)
- ◎ 児童・生徒の生活(学力の土台)のチェック
家庭のケア、家庭の教育力

授業改善ツールとしてのめあて、ふりかえり

1. めあて、ふりかえり は汎用型ツール

- ① 他のツール(例:グループ学習)より汎用性があり、使用のハードルが低い。必要性の共通認識づくりやすい。経験の蓄積
- ② 他のツールとの併用可能
- ③ 学力との相関性(2013 国立教育政策研究所、2027 三重県教育委員会)
- ④ 自律的学習者への展開、期待できる。

2. めあて、ふりかえり だけでいいか？

- ① 千里の道も一歩から(授業改善の起点)
- ② 千里の道があることを忘れない(次の一歩への歩み)

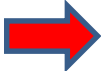
ふりかえり はなされているか？

ふりかえりについても形式的には満足できる水準

2. 授業の振り返る活動を設定したか？設定されていたか？

	H26 小学校	H27 小学校	H28小学校	H26児童	H27児童	H28児童	H29児童
三重県	76.3%	89.9%	93.0%	67.1%	71.4%	<u>76.9%</u>	<u>78.8%</u>
全国	91.6%	93%	94.9%%	71.9%	75.3%	76.1%	76.2%

	H26 中学校	H27 中学校	H28中学校	H26生徒	H27生徒	H28生徒	H29生徒
三重県	84.5%	87.5%	96.1%	51.4%	58.3%	<u>78.8%</u>	<u>72.1%</u>
全国	89.2%	90.9%	93.1%	53.3%	59.3%	73.1%	66.1%

めあては「日本の運輸・通信の様子分かる」  そもそも、めあてとしてOK？

授業の概要

黒板の文章の中に「穴あき」がある。それを「わかる人？」と生徒に問い、手を挙げた生徒を当てていく。「高速道路」「新幹線」・・・と各々の生徒は発言し、それを教師は穴埋めしていく。ときどきは教師が単語の説明をする。例えば「ハブ空港」のハブとは自転車の輪っかの中心にあるもの、という説明をする。

生徒はその間、ノートを書いている。

ふりかえり はとくになかったが、教師は当該箇所の教科書の文章の重要な箇所に下線を引くように指示し、生徒は指示通りに下線を引いていく。

中学校グループの課題

授業の改善をめあて、ふりかえりをつくりかえることで行うとしたらどのような板書になりますか？（板書を考える、ということは、授業の内容を考えることです）

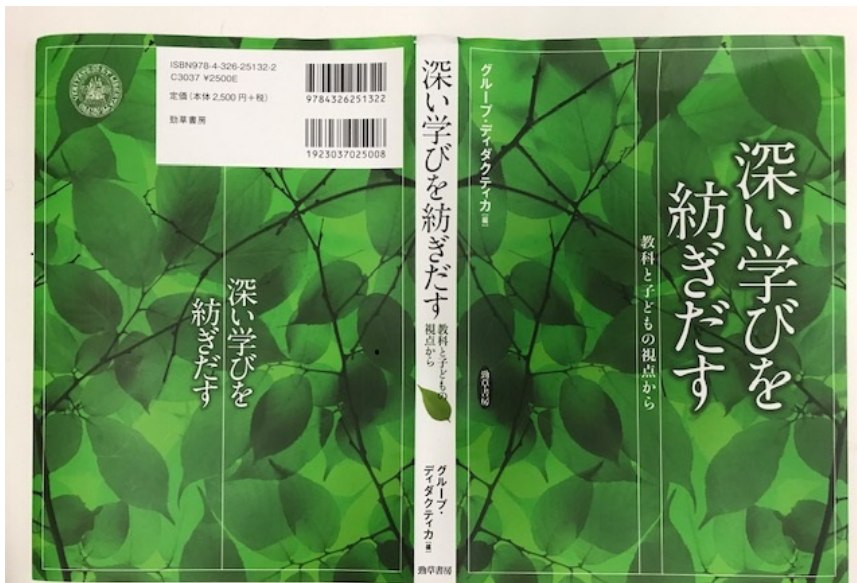
小学校グループの課題

小学校算数4年生 の「展開図(立方体)」の指導案の修正

「めあて」はこれでいいのか？

「まとめ」はこれでいいのか？

修正するとしたらどのような指導案になるか？(指導案は別紙資料)



参照： 第8章 授業における目標の構造・機能と授業づくり(森脇)

令和元年6月10日（月）

教職 2～3 年次教員のための授業力アップ研修

授業研究を通して、 教師の専門性を開発する



三重大学教職大学院

特任講師 笹屋 孝允

「研究授業」「授業研究」 やっていますか？

- 準備が大変...
 - 公開授業で，何を見たらいいかわからない...
 - 事後協議会がつまらない...
 - やった甲斐がない...
 - 研修計画に研究授業が設定されていない...
-
- しかし，授業力向上のためには，やはり研究授業・授業研究は大切です。
 - まずは，自分で日頃からできる授業研究のやり方を見つけましょう。

そもそも「授業(研究)」の目標は何？



成長

成長に合わせて方法を選ぶ
≡教師の専門性

指導方法・技術

ここがうまくいったか・
うまくいっているか、を
考えるのが「授業研究」



→子どもの成長を分析できるようになることも目標！

授業を見る観点

- 授業を見る観点は、多種多様です。
- 絞るなら、**学校教育目標**や、**校内研修のテーマ**、「**自分の目指す授業**」などが参考になると思います。
- この学校の研修テーマが、
「つながり合う子どもたちを目指してーペア・グループの学び合いを通してー」
なので、「ペア・グループの学び合い」で気づいたことを右側にメモしながら見ましょう。

授業を「比べて見る」

- 様々な見方考え方ができます。比べて見て...
- 子どもたちの変わったところ = 子どもたちの成長したところ
- 変わらないところ = 今後の課題or子どもたちの特性
- 変わったところをもっと追求しても（いいところをさらに伸ばす）、変わらないところに対処しても（課題を克服していく）
- どちらも「授業研究」

今日の講座のまとめ

授業力を高める授業研究のために、

- とりあえず、映像記録をとっておきましょう
- 記録を何回かとったら、比べて見てみましょう
- 比べて見て、子どもたちの成長したところ、変わらないところ、を探してみましょう
- 成長したところ、変わらないところを、自分の目指す授業や、学校教育目標と対応づけてみましょう
- 日々の授業の成果（子どもの成長）、今後の課題（これから期待する子どもの成長）を明確にしましょう

参加型アクティブラーニングと ICT学習利用



須曾野 仁志

susono@edu.mie-u.ac.jp

三重大学教育学研究科

(教職大学院)

アクティブラーニングと 教員の生涯学習

- 主体的、対話的、深い学びにするには → まず教員自ら参加・参画
- 学び続ける教員
 - 現場(教室、学校、地域等)で、子どもから
 - 様々な分野、異なる教科、異校種から
- 学習支援 > 教え込み
- 学習・教育方法 > 教育内容



Scratchとは

- M・レズニック(MIT)が2000年代後半に開発
- 子ども用プログラミングツールとして
- 子どもがビジュアルにプログラミング
 - あらゆる「100歩動かす」「90度回す」等と画面上のブロックをクリック・組み合わせる
 - 命令の種類によって、ブロックの形と色が異なる
- 世界の言語に対応
 - 日本語は「ひらがな(のみ)」「漢字」両方に対応
- 初期状態では、画面上のネコを動かす



小学校児童のためのビジュアルプログラミング学習の提案(1)

- すべての児童(子ども)が主体的にコンピュータ等に働きかけて学ぶ
 - 画面上でキャラクタ(スクラッチでは「ネコ」、Logoでは「カメ」)を動かす
- 算数・数学で学ぶことと、プログラミングを結びつける
 - 例 角度、小数、負の数、座標、関数など



小学校児童のためのビジュアルプログラミング学習の提案(2)

- スクラッチの命令を組み合わせて、ブロック(プログラム)を作る
- 小中学校のプログラミング学習は、技術教育・情報教育というより、、、思考力・表現力等を育てる
- クロスカリキュラム的な発想でプログラミング学ぶ
- お金をかけないで学ぶ

シリーズ・「情報基礎」のアイデア授業

生徒がパソコンに話しかける授業

三重県上野市立府中中学校教諭

須曾野仁志

平成5年度からの全面実施を前に、少しずつその輪郭が見えてきた「情報基礎」。しかし、期待の大きさは裏腹に、ずっしりとした骨格が見えてきていないようにも思える。

そこで、本誌では、今号から「シリーズ・『情報基礎』のアイデア授業」を始める。ロゴライタ

ーを活用し「情報基礎」を念頭においた、さまざまな試みをされている先生がたに実践やアイデアを語っていただくことで、読者の方々に「情報基礎」に対するより豊かなイメージをつくっていただければと思っている。初回の今回は、須曾野仁志先生に平成2年度の実践を紹介していただく。

图1



图2

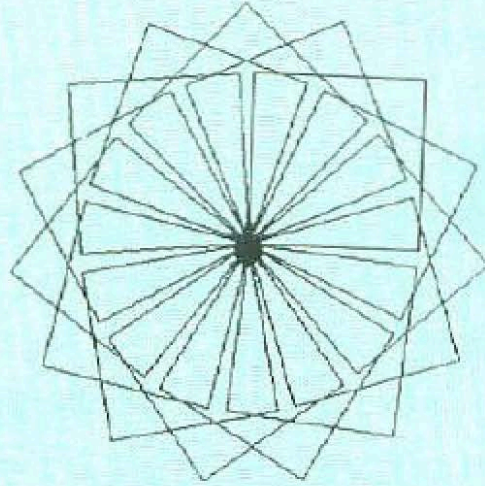


图3

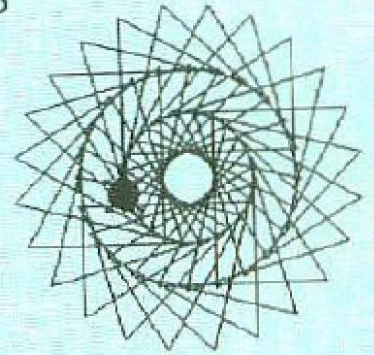


图4

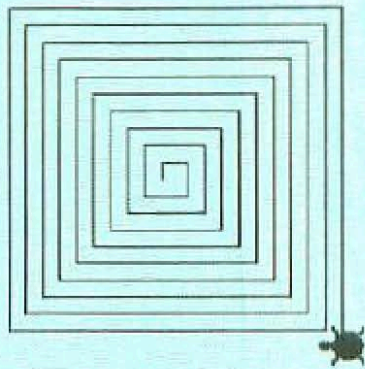


图5

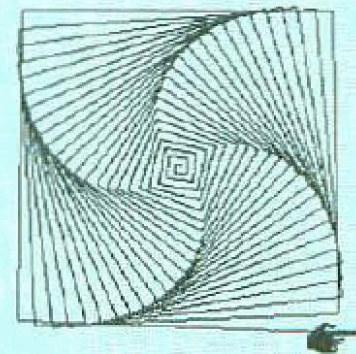
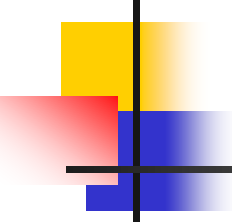


图6



图7





小・中学校でプログラミング学習を進めるポイント

- 子どものための学習環境をまず整える
- 子どもたちはデジタルネイティブ
- 教員は子どもといっしょにプログラミングを学ぶ姿勢で
- 絶対に、プログラミングを教師が教えすぎない



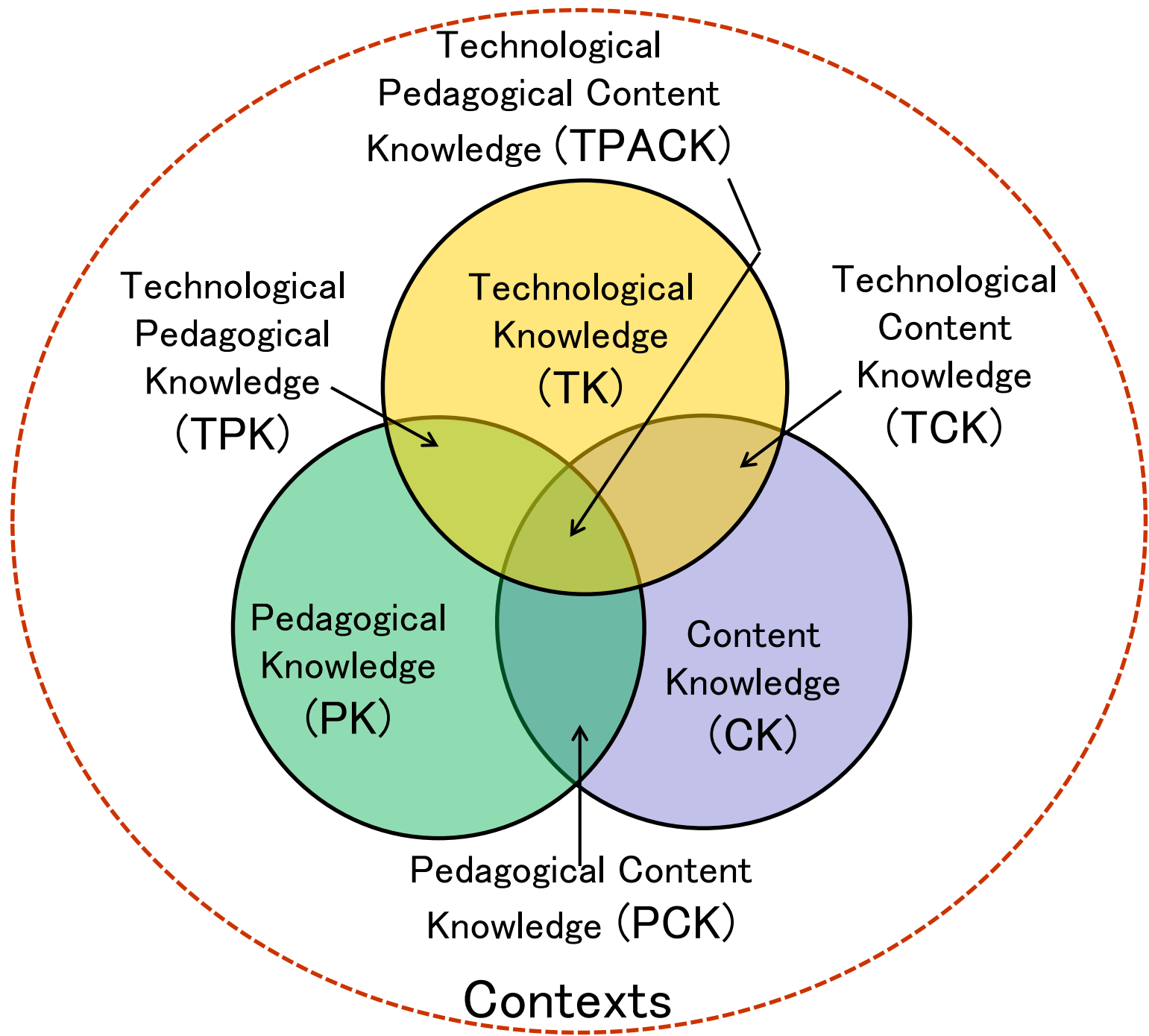
ICTを利用する学習

- 米国の学校では、かなり進む
 - 個別・グループでの学習
 - アクティブラーニング
- インストラクショナルデザイン (Instructional Design)
 - 授業・学習の効果・効率・魅力を高める
 - 日本の学校教育では、まだまだ

「魅力」をデザインするID理論

ARCSモデル

- Attention(注意) おもしろそう・注意を引く
- Relevance(関連性) 自分との関連・つながり
- Confidence(自信) やればできる・た
- Satisfaction(満足感) やってよかった





本講習のまとめ

- 教員自らがアクティブラーニング
- いつでもどこでも学ぶ
- デジタル世代の学習者がICTを使って
- 情報発信型の学習
- 魅力的・効果的・効率的に学べる
学習環境